

官民連携プラットフォーム 活用事例①

タイトル:手ぶら登園の実証実験(担当課:保育幼稚園課)

■課題のポイント

目指す未来	・保育所等における待機児童ゼロを早期に実現したい！
現状	・保育士不足等により、保育所等の利用児童数が利用定員を下回った施設や、利用定員の減員を行う施設があるなど、待機児童の発生につながっている。
解決したい課題	・保育士の確保に向けて、保育士の負担軽減を図っていく必要がある。 ・特に、各園児のおむつの在庫確認、保護者への補充連絡等の管理など、おむつに関する業務は保育士の負担となっていることから、おむつに関する業務の負担軽減を図っていききたい。

■実施事業(実証実験)のポイント

提案企業	BABY JOB 株式会社（本社：大阪府大阪市）
取組内容	・市立保育園（11 園）にて、おむつの定額制サービス「手ぶら登園」の実証実験を実施（実施期間：令和5年6月～7月） ・これまで、各家庭から持参されたおむつを園児ごとに管理しなければならなかったが、「手ぶら登園」を実施することで、個別管理の必要がなくなり、保育士の負担軽減が期待される。 ・また、保護者も名前を書く手間が省かれ、保護者の負担軽減も期待される。
成果	・実施期間中は、0歳から2歳の園児で308人中131人が利用 ・保育所の職員からは、おむつ枚数を気にせずに交換できるなど、また保護者からは、おむつを持参せずに登園できる、使用しているメーカーのおむつが子どもに合わないなどの声があった。
担当者の声	・実験の結果、長所及び短所の様々な意見があり、それらを提案企業に還元したことで、よりよいサービスの提供につながるものと思われる。

鹿兒島県で初！

2023年6月より、

鹿兒島市の公立保育施設で

「手ぶら登園®」の実証実験を開始！

 鹿兒島市 × 

